



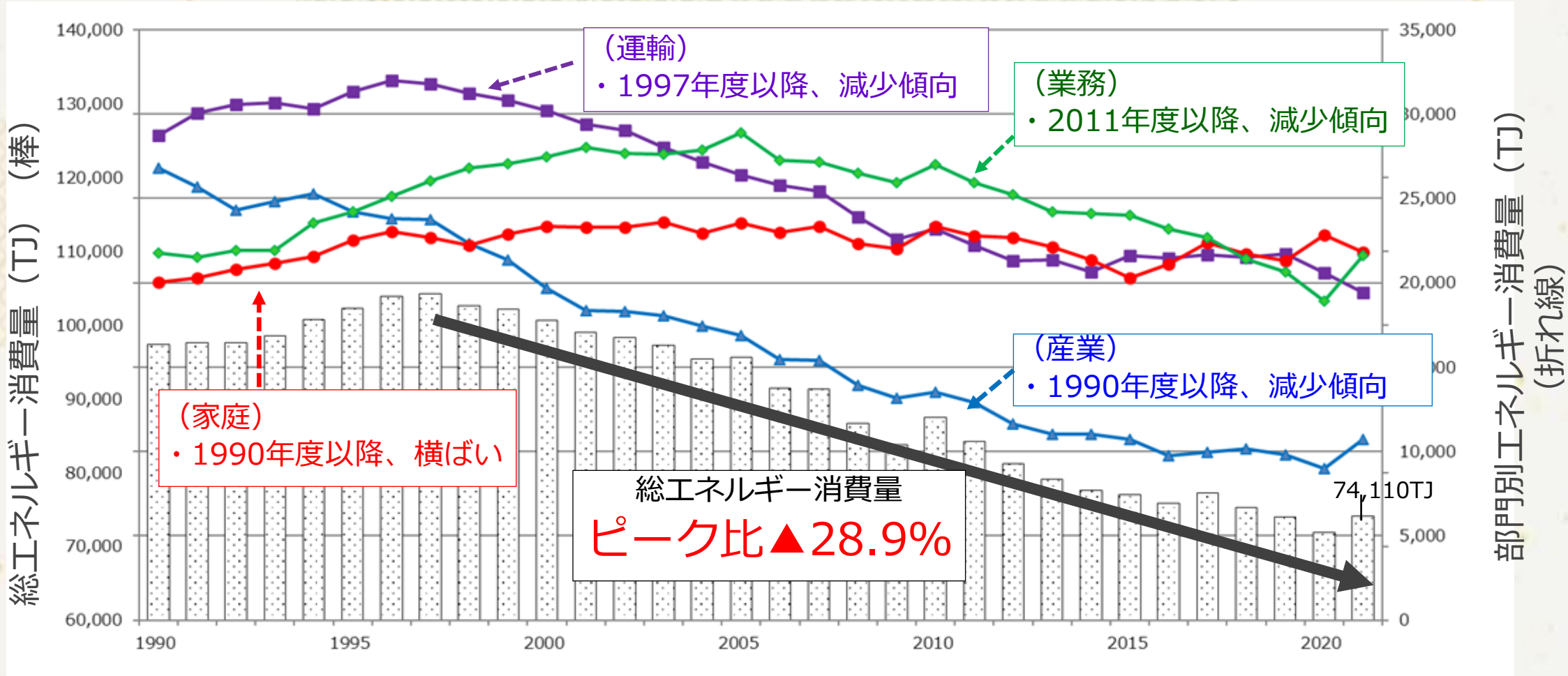
脱炭素ライフスタイル推進に向けた公民連携の取組 「京都発脱炭素 ライフスタイル推進チーム ～2050京創ミーティング～」について



CITY OF
KYOTO

京都市環境政策局地球温暖化対策室

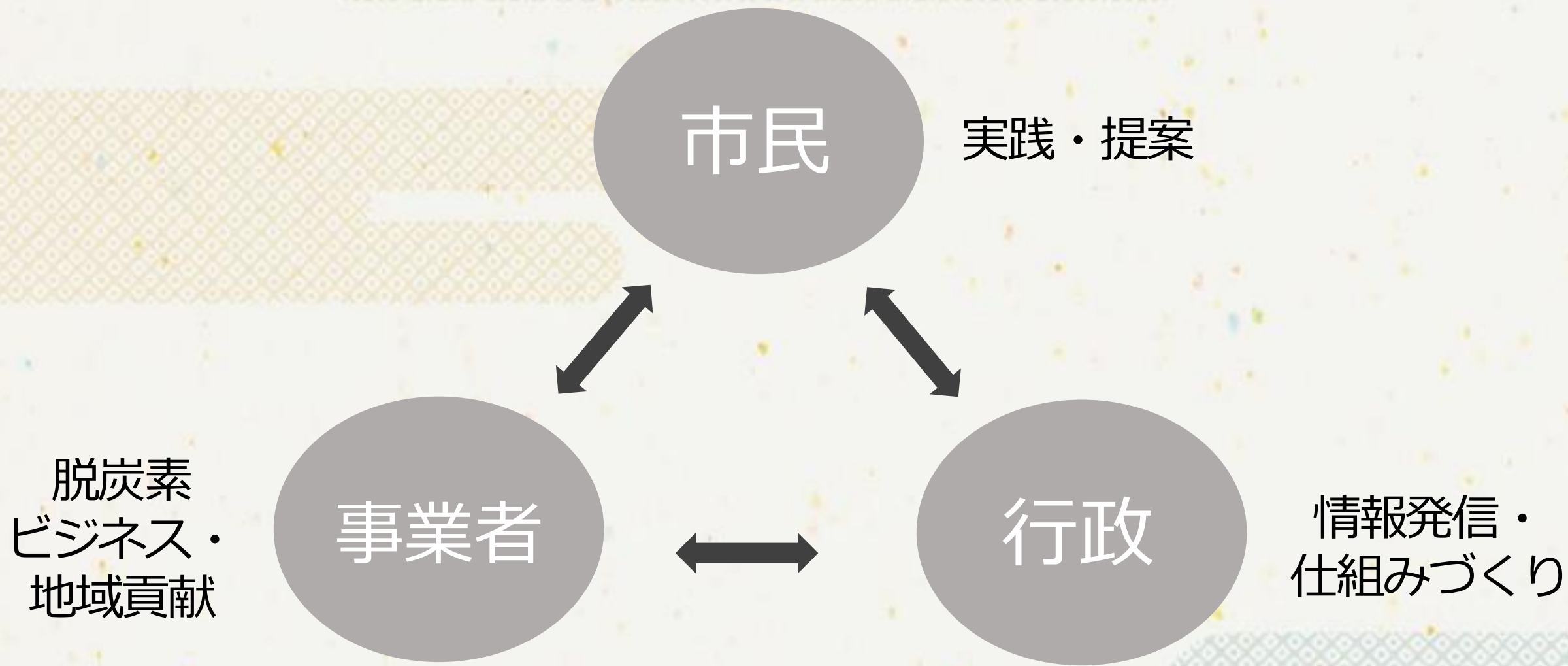
京都市のエネルギー消費量



■ 総エネルギー消費量(左軸) ▲ 産業部門(右軸) ■ 運輸部門(右軸) ● 家庭部門(右軸) ◆ 業務部門(右軸)

総エネルギー消費量は減少傾向であるが、**家庭部門のエネルギー消費量は横ばい**

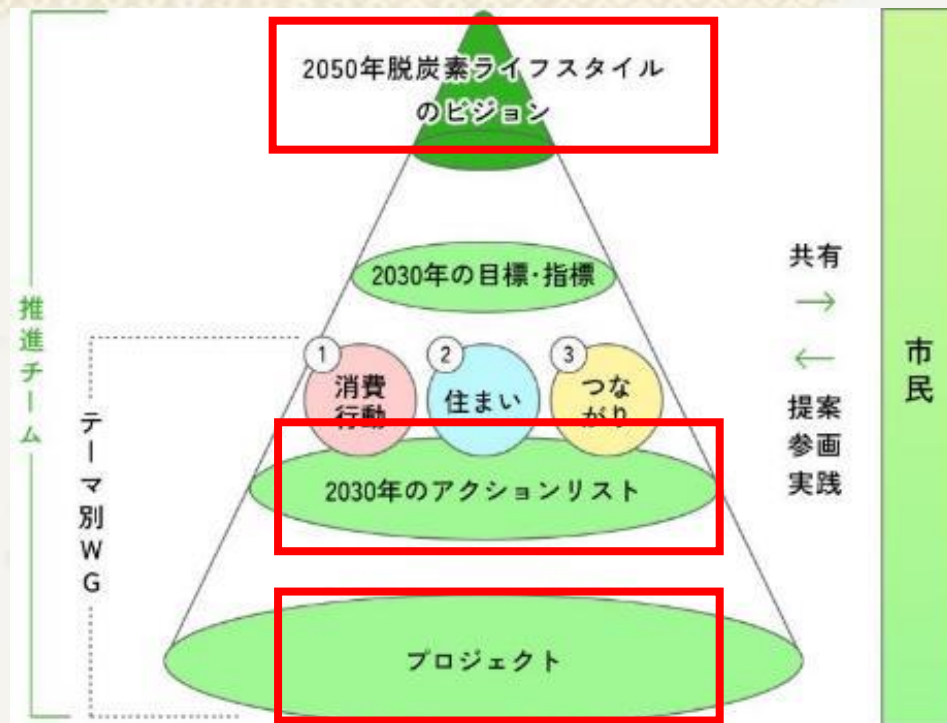
脱炭素ライフスタイルの推進に向けて



京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム



- 2050年の脱炭素社会と将来世代が夢を描ける豊かな社会の同時実現を目指し、市民、事業者等で構成する「**京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～**」を発足
- 脱炭素ライフスタイルのビジョン**を構築。2030年までに市民の皆様に実践いただきたい**アクションリスト**、実践のための仕掛け（**プロジェクト**）を創出・実証
- 脱炭素な暮らしが、使命感や心意気だけではなく、**心地よい・楽しい・お得などポジティブな発想**で取組を展開



2050年京都発脱炭素ライフスタイルのビジョン



ビジョン

京都の自然と共生する文化や
しまつのことを礎に
自分らしい持続可能な暮らしの選択で
実現するカーボンニュートラルで豊かな社会

キャッチコピー



ライフスタイル転換の仕掛けづくり（プロジェクト創出実証）



- 「消費行動」「住まい」「つながり」の3つのテーマ別WGを結成
- 参画する企業等が中心となり、京都市と連携し、市民の皆様が実践しやすい仕掛け（プロジェクト）を創出・実証。11件のプロジェクトを実証中（R6年2月末時点）
- 実証2年以内でビジネスとして社会実装を目指す

【実証中のプロジェクト（抜粋）】



産地を巡る循環ツアー



学生寮断熱ワークショップ



使用済衣服の回収&循環プロジェクト



環境配慮型農業の実践



脱炭素ツーリズムHUB



四条通をサステナブルなシンボルへ



レスキュー野菜の地域での販売プロジェクト

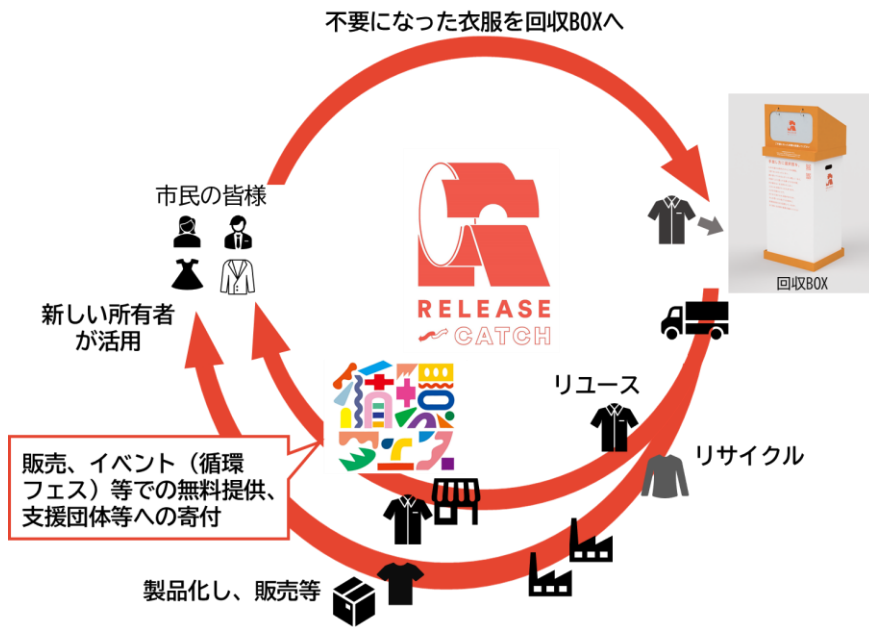
使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」

関連 アクション

- 古着を購入



- 使用済衣服
をごみではなく
資源として
手放す



- ・ 使用済衣服を回収し、地域内でリユースする仕組みを創出
- ・ リユースの若者カルチャー醸成を目指し、回収した衣服の無料提供など、衣服の回収と循環を体験できるイベント「循環フェス」を開催
- ・ 市内で古着事業を行う(株)ヒューマンフォーラムと地域企業をつなぐハブの京都信用金庫が中心となり取組推進



アウトプット・アウトカム



回収

使用済み衣服回収量

約24.2t

回収BOX設置

204か所

リユース

約18,000着

(うち販売)

約8,000着

全国14店舗で販売

循環フェス

開催

4回

参加者

延べ40,500人

※約半数は20代以下

人材育成

講演

延べ6回

参加人数

延べ407名

主催者が高校大学で講演（R5年度）

CO₂削減量

492.5

t-CO₂

- ・使用済衣服の廃棄に係るCO₂削減量
- ・新規衣服の製造に係るCO₂削減量

連携企業等

約130団体

RELEASE⇔CATCH、循環フェスの関連企業、団体、教育機関等

認定・補助金

●環境省モデル事業採択

- ・令和4年度使用済製品等のリユースに関する自治体モデル実証事業
- ・令和5年度使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業

●令和5年度京都環境賞

((株)ヒューマンフォーラムが受賞)

地域での生ごみ堆肥の活用推進プロジェクト



関連 アクション

● 野菜くず等を
堆肥化・回収



● 地域で資源が
循環



- ・ 生ごみ堆肥を介した地域の資源循環モデル「ごみカフェ KYOTOモデル」。家庭で出る生ごみをバック型のLFCコンポストを使って堆肥化し、地域の店舗や公園で回収、地域内の農地や公園で活用

- ・ 堆肥持参者にはまちづくり通貨「京都祭コインCOMO」を付与
- ・ 企業がコンポスト導入する事例も生まれる

※本プロジェクトは日新電機グループ社会貢献基金からの寄付をいただき運営



まちづくり通貨「京都祭コインCOMO」



株式会社 夢びと

アウトプット・アウトカム

たい肥回収

回収イベント開催

31回

たい肥回収量

1015.1 kg

生ごみ削減

5,985 kg

アドバイザー育成

LFCコンポストアドバイザー
育成数

5 名

【企業の活用事例】 堆肥を社員・地域・顧客のコミュニケーションツールとして活用

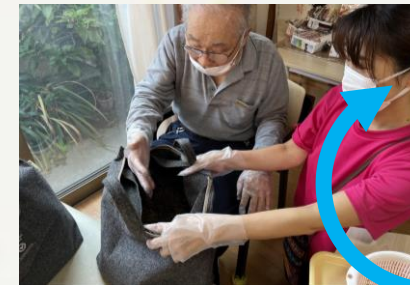
● 京都信用金庫 西大路支店

駐車場の一角を
さつまいも畑に。
収穫したさつまいもは、お祭りで地域の方へ還元



● (株)アグティ

同社を介し、デイサービス施設の利用者さんが作った堆肥が農家さんへ渡り、堆肥でできた規格外のお野菜がデイサービス施設へ還元



デイサービスセンター
くりくまさん



しんやさい京都さん
アグティさん

環境負荷の見える化プロジェクト

関連アクション

● 環境配慮商品の購入



・ 環境配慮商品・サービス等の普及に向けて、環境負荷を見える化を促進することを目的とする。

・ Earth hacks(株)と連携し、市内企業の商品サービスのカーボンフットプリントを、既存商品と比較した「デカボスコア」として表示。R5年度は3商品を表示

デカボスコア算出商品

(1) unbleached羽ぶとん レギュラー／株式会社イワタ

環境配慮の工夫点
・無漂白・無染色の生地及び羽毛を使用
・再生エネルギー由来電力の使用
・定期的なメンテナンスによる製品の長寿命化

(2) 西陣織ファブリックパネル ／sampai (サンパイ)

環境配慮の工夫点
・廃棄予定である西陣織の柄見本生地をアップサイクル活用
・廃棄予定である家具の端材のアップサイクル活用

(3) 和ろうそく／有限会社中村ローソク

環境配慮の工夫点
・植物由来の原料のみを活用した製造方法
・使いきれなかった自社製品の回収及び再利用

この製品1つあたりの製造工程におけるCO2削減量 **28.0 kgCO2e**

15年に1度通常の新品の布団を購入し
計45年間使用した場合の排出量（外側の布は染色あり）

65.2 kgCO2e

新品の布団を購入し15年ごとに計2回中わたを再生し
詰め替えることで計45年間使用した場合の排出量
（外側の布は染色せず）

37.2 kgCO2e

デカボスコア
42% off
by Earth hacks 2023.10

この製品1つあたりの製造工程におけるCO2削減量 **0.67 kgCO2e**

新たに素材を調達して製造したファブリックパネル

1.02 kgCO2e

産廃予定である西陣織の柄見本生地と
家具をアップサイクルして製造したファブリックパネル

0.35 kgCO2e

デカボスコア
65% off
by Earth hacks 2023.10

この製品1つあたりの製造工程におけるCO2削減量 **7.88 gCO2e**

新たに素材を調達して製造した洋ろうそく

9.41 gCO2e

使い切れなかった自社製品を回収し原料に加え
手作りでUpcycleした和ろうそく

1.53 gCO2e

デカボスコア
83% off
by Earth hacks 2023.10



▲京都市役所地下通路で商品展示

四条通をサステナブルのシンボルへプロジェクト

関連 アクション

- 再エネ電気の利用



- 地域で電力を融通する



- ・消費行動の変容を促すことを目的に、京都の消費の代名詞といえる四条通をサステナブルのシンボルにする取組を実施
- ・R5年度は、一般社団法人祇園祭ごみゼロ大作戦が主体となり、祇園祭の宵山における山鉾（油天神山、鷹山）の駒形提灯を、再生可能エネルギーを利用して点灯

①再エネ由来中心の
電力による充電



充電

②ポータブル蓄電池から給電



ポータブル蓄電池
(EcoFlow Technology Japan株式会社)



給電



駒形提灯 (鷹山)

地域企業と
連携！！

- 再エネ由来電力の充電
 - ・パタゴニア 京都
 - ・寝具御詔専門店IWATA 京都本店
 - ・mumokuteki京都店
 - ・堤浅吉漆店
- ▶ 4社が協力！

- 創電イベント
 - ・パタゴニア 京都
 - ・GOOD NATURE STATION
- ▶ 2社が協力！
- ▶ 約120名が参加！



企業プラットフォーム（案）

事業活動を通じて脱炭素を推進いただくとともに、
京都発脱炭素ライフスタイルを市民に呼び掛け
アクションの実践を促していくための企業プラットフォーム

（参加企業の取組内容）

- 市民のアクション実践に資する製品・サービスの提供や協力
- 事業活動の中での脱炭素アクション（ノーマイカーデー等）実践
- 地域での環境活動
- 社員への脱炭素アクションの実践呼び掛け

参加企業の
企業名や取組を
市HPで掲載

企業間で連携・共創
する機会の創出

※ネットワーキングフォーラム等の
開催

参加企業の
製品サービスや、
イベント等の発信

公式HP「2050MAGAGINE」



2050MAGAZINE

- ・ビジョンやプロジェクト情報のほか、インタビュー記事の掲載など、様々な切り口で脱炭素に関する取組を発信
- ・一人ひとりの行動によるCO₂削減効果見える化機能も追加！



＼SNSで情報発信中！／

Instagram	@2050magazine
X	@magazine_2050
Facebook	@doyoukyoto

ご清聴ありがとうございました

【問い合わせ先】

京都市環境政策局地球温暖化対策室

075-222-4555

ge@city.Kyoto.lg.jp



DO YOU KYOTO?

2050

ゼロ

ゼロ

変わろう、今。変えよう、未来。